第163号

発行所
新潟県中魚沼郡
中里村公民館

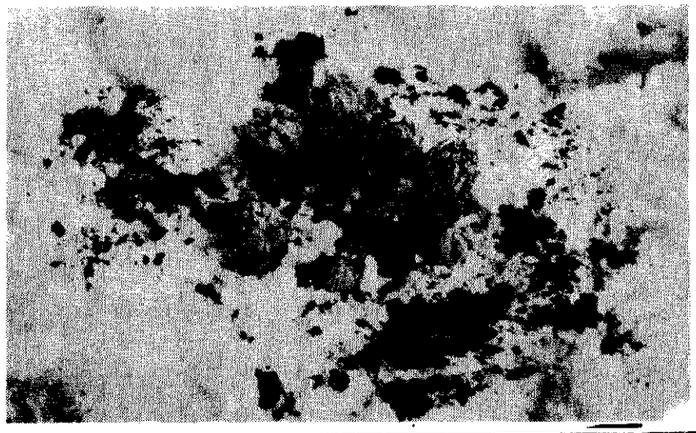
毎月1回15日
定価1部5円

なかさと

私たちの村

人口	7,909
男	3,921
女	3,988
世帯数	1,731

2月1日現在



退任のごあいさつ

前中里村助役　広田富左衛門

私、このたび家事の都合によりまして、一月三十一日付を以って、助役の任を引くことになりましたので、村民の皆様方に紙上をかり退任のご挨拶を申しのべさせていただきます。

昭和二十九年旧旧沢村収入役町村合併後中里村収入役、助役として、今日にいたる十六年余の長きにわたり、村民各位のご協力とご指導を賜りまして大過なく、村政執行の任にありましたこと、心から感謝厚く御礼を申し上げる次第でございます。

広田助役退職する

中里村助役、広田富左衛門氏には、本年一月三十一日付をもって退職されました。

広田氏は、昭和十七年五月一日、旧旧沢村収入役に就任し、昭和二十一年五月、一旦退職しましたが、昭和二十九年八月、再び要請により収入役となり、町村合併に尽力され、昭和三十年五月、中里村収入役となった年五月、助役になられて今日に至るまで、二十年間、その半生を村行政に捧げ、村の発展に尽力された偉大なる功績は、筆舌では到底表わすことが出来ないものがあると思います。

先般、役場職員でささやかではありますが、広田氏の送別会を行なった際、村長は、「広田氏は、助役をやめても誰しもが道で逢えば、助役さん……と呼ぶであろう」……と云われた如く、村民一人一人に深く親しまれ慕われていました。

どうか役場を去られても、何時までもお元気でご活躍されるよう、心よりお祈り申し上げます。

春のいぶき

大寒さ余の白雪の下に
もはや春のきざしがある
固くとざされた君の心も
やがて花開く時期が
もう、すぐそこまでやって来ている

【写真はふきのとう】

広田助役退職する

中里村助役、広田富左衛門氏には、本年一月三十一日付をもって退職されました。

広田氏は、昭和十七年五月一日、旧旧沢村収入役に就任し、昭和二十一年五月、一旦退職しましたが、昭和二十九年八月、再び要請により収入役となり、町村合併に尽力され、昭和三十年五月、中里村収入役となった年五月、助役になられて今日に至るまで、二十年間、その半生を村行政に捧げ、村の発展に尽力された偉大なる功績は、筆舌では到底表わすことが出来ないものがあると思います。

先般、役場職員でささやかではありますが、広田氏の送別会を行なった際、村長は、「広田氏は、助役をやめても誰しもが道で逢えば、助役さん……と呼ぶであろう」……と云われた如く、村民一人一人に深く親しまれ慕われていました。

どうか役場を去られても、何時までもお元気でご活躍されるよう、心よりお祈り申し上げます。

昭和四十五年度　保育所児童館入所申請受付について

昭和四十五年度、保育所、児童館入所児童の受け付けを、左記要領により行ないますので、入所希望者は期日までに申請書を提出して下さい。

◎申請書届出の要領

一、対象児童＝四月一日に満三才に達するものから五才まで。
三才児＝昭和四十一年四月二日より、四十二年四月一日生まで。
四才児＝昭和四十年四月二日より、四十一年四月一日生まで。
五才児＝昭和三十九年四月二日より、四十年四月一月生まで。

二、申請書届出〆切期日＝昭和四十五年二月二十八日

三、申請書の取扱者＝各部落婦人会支部長及び役場社会厚生課

四、入所通知＝昭和四十五年三月二十五日

五、その他

①申請する理由、希望書見、家族の健康状況、両親の稼働状況（出稼ぎなども）、副業等、選考の参考となる事項はくわしく記入して下さい。

②本申請は、あくまでも希望として申請していただくものであって、申請されましても、選考の結果入所を断念していただくこともあります。

◎尚今回の入所申請は、中央保育所、児童館のみです。

中里村奨学金

希望申込みは二月末日まで

中里村育英事業委員会では、昭和四十五年四月からの村育英資金貸与希望申し込みを、次の要綱で受け付けております。

①申込資格
高等学校を卒業したもの。又はこれと同等以上の資格を有する者で、大学入学を希望している人。又は現在大学在学中の人。

②貸与予定人数　五人以内

③申し込み方法
貸与希望者は、次の書類を添えて、二月末日までに、村育英事業委員会あてお申し込み下さい。

(イ)資金貸与願（二通）
(ロ)身分証明書（一通）
(ハ)健康診断書（一通）

なお、くわしいことは、教育委員会事務局にお尋ね下さい。

昭和四十五年
交通安全
年間スローガン

●運転者向けのもの＝カッとする心の動きが事故のもと
●歩行者向けのもの＝無理するな遠くに見えても車は速い
●こども向けのもの＝いつものなれたとおりでもたたしくあるいてたたしくわたらん

近い愛、遠い愛

斉藤大馨

節分も過ぎ春を迎える季節だが越後の春はまだ遠い。雪にとじこめられ静かに、人類全般のことを考えてみる。お互いの生活を喜んだり悲しんだりする気持を、科学の功績とか、それに併いやすい弊風をつくることは、いわば遠い大きな人間愛である人類愛や民族愛や社会愛は、ニイチエの言葉を借りると、遠い遥かなる愛である。数多くある人々であるならば、多かれ少かれ、たいていそんな大きな愛情をもって生きて来た。これからも生き続けるであろう。

しかし、私どもの身の廻りをふりかえって見れば、あまりにももっと小さな狭い愛と憎しみとがたえず渦を巻いている。愛は結びつける力である。これがあるから世の中は、ともかく一つに結びついておたがいに生きてゆけるのである。道徳というのもつまりその愛に他ならない。

私達の身近かにある小さな愛情、それも即の大きな愛情と同じほどの重要さをもっている。いずれがより大切かということもいえまい。大小の愛を併せもつのは、通常人の生き方であろう。近い愛も遠い愛も、ともによく充たしてゆくことはなかなかむづかしいことではある。古語にも「家を斉え国を治め、天下泰平にする」とあるが、これも小さい身近な一家、一族、隣人の愛からだんだん天下国家世界へと拡ってゆく、愛情発展のしかたを教えている。人格が大きく発展しないことには、遠い遥かな人類愛はもてない。かりにも指導者と自ら任ずるならば、むしろ広い人間生活の上に眼を見開いて、そこに自分の使命と責任と愛情とを注いでことをなさねばなるまい。又他の愛情に生きるものでなくてはならない。そこが無我の精神で大衆よと呼びかける意味もある。

古聖の行き方は、大きな遥かなる愛のために、自己の名誉や利益を離れ、地域社会のためにつくされたものである。真にその地域社会を思うならば、大愛を絶って世のために生きる点にある。それが昔から指導者たると一般人とを言わず出発点であると言われているものの多いことはどうしたことか。個人のエゴイズムよりはましだが、集団エゴイズムの傾向もよくない結果を招く、それが自然に個人の利害とも密接に関連してくるから、極度に排他的な醜い派閥意識にもなる。

人間が二の集団や派閥に属していようとも　人間一味の気持で活動することが、古聖の慈悲精神をつぐゆえんである大悲は絶対無限な愛で、遥遥愛の最も純粋な典型的なものである。もし、自己中心に立てこもるならあたかも洞窟の偶像にひざまづくような状況になり、広く地域社会、人類の上に想いをいたすことはなくなる。

婦人は家庭の中心で、身近な愛に生きる傾向が多いが、進歩した教養ある現代婦人は、なかなかに社会意識も人類意識も強くなった。まことに喜ぶべき現象であると一般に言われるが私共の周辺を見廻わす時はたして手放しで喜んでいてよいだろうか。平均に近い愛に強く、遠い愛に弱いのが実情である。願わくは、大は小をかねるというように両翼相うって人間愛の完成を期したい。

母なる信濃川

"日本一の大河"のドラマをつづった

本書は信濃川の源流をたどり信州の梓川、犀川、千曲川にも取材して、川の歴史や人々の生活、風物をくまなく探った「よみもの・信濃川史」。そのもとになったのは、昭和四十三年一月から一年間にわたって毎日新聞「新潟版」に連載された記事である。出版に当たっては、写真、図版などの資料を新たに加えた。

信濃川の沿岸に生まれ育った人たちをはじめ、郷土史、民俗学愛好家の"必読の書"であり高校生、中学生の"郷土読本"としても、ぜひ、おすすめしたい。毎日新聞新潟支局編、北陸建設弘済会発行。

この本のほしい方は、中里村公民館にご連絡下さい。一冊八〇円です。

信濃川のドラマは、いまから百万年前の洪積世に幕があく。人類の歴史が始まってから、この川のほとりは古代人の"楽園"となり、農耕を営む人々の生活のよりどころとなった。いまも豪雪、工業をはじめ、われわれの生活になくてはならない"恵み"をもたらしている。

スピードは四十キロ以内に

——雪道の交通事故防止——

田沢・倉俣・侯駐在所

雪国の冬は、道路の積雪や凍結のためスリップしたり、思いがけない方向にハンドルをとられたり、視界が悪いなど、ドライバーにはいやな季節です。このような道路環境のなかでは、次の点に注意し、交通事故を防止しましょう。

◎雪道を安全に走るには
▽凍結道路では、ふだんのスピードの十～二十㌔以上減速し四十㌔以内で運転する。
▽車間距離は、ふだんの二倍以上をとり、スピードは、五十㌔以下で五十㌔以上とることが必要です。
▽急発進、急加速、急制動、急ハンドル等はさける。
●降雪で見とおしの悪いときはスピードをおとし、前方の安全確認につとめる。
●転落の恐れがあるので、路肩近くの通行はさける。
●道路上に長時間駐車をしない
●前の車の轍たちを通行する。
●雪道での追越はしない。
●歩行者、自転車乗りのそばを通るときは、一～二㍍の間隔をとる。
●降雪やふぶきなどで見とおしの悪い時は、さらにスピードを落し、前方の安全確認につとめる。
◎冬期間の運転には、次のものを携行して下さい。
▽タイヤチェーン▽スコップ▽砂▽むしろ
またタイヤチェーンのとりはずしの練習をしたり、交通標識に注意し、安全運転を実行しましょう。

（三面よりつづき）

汽車待ちの語らい人々温めいる
オリオンの星の涙が雪となる
幸せの雪降る街で父祖の墓　おの江
冴々と星ら行く手は白い盆地　田記
ほっほっと軟る乗木瓜も朱をふっみ　大泉
遠雪崩語り続ぐ仙炉に寄ゆる　土牛
夜々吹雷く小さく残す拓地の灯

（新郎　春日　昭男（三九）十日町
新婦　広田　京子（三三）千溝）

人生往来

◎出生

子の名	父の名	部落名
太島　喜廣　巌	芋沢	千溝
綱口　正寿　善　三	千溝	
広田　正志　幸治	千溝	
井ノ川　勝茂　樹	本屋敷	
井ノ川正年　茂　樹	本屋敷	
鷲田　信行　寿平	宮中	
根津美代子　茂　樹	宮中	
村山　幸夫　幸一	上山	
富井　季子　政治	市之越	

◎死亡

氏名	年令	部落名
樋口初三郎	(83)	千溝
滝沢　マス	(78)	墓地
島田フクイ	(92)	倉俣
桑原　兼蔵	(78)	田代
鈴木　ソメ	(79)	墓地
渡辺富貴市	(76)	高道山
村山　伊助	(75)	新屋敷
服部　キチ	(73)	如来寺
山本　サダ	(72)	小出
高橋　ツネ	(78)	宮中
山田作太郎	(78)	清田山

自由診療について

財団法人 上村病院長 上村正子

最近、テレビや新聞で医師の時間外自由診療の是非についていろいろ批判されておりますがこのことについて誤解のないようにわかりやすく説明し、村民の皆様のご協力をお願いいたしたい、存じます。

時間外自由診療とは、どう言うことかと申しますと、その医師が定めている診療時間

上村病院では

四月一日～十月三十一日＝午前八時～午後五時

十一月一日～三月三十一日＝午前八時三十分～午後五時

この時間外に、急病でもないのに、自分の都合でわざわざ夜診察に来たような場合に自由診療にすると言うのです。自由診療になると保険証を使わないでそのうえ保険点数の二倍を全額払っていただくことになります例えば保険診療では、三百円で済むところを自由診療になると二千円以上になります。

医師は医療費が値上りしたのにまた金儲けをする為に保険証を使わせない、と誤解しないでいただきたい。何故このようなことをするかと申しますと、開業医の医師は二十四時間勤務で殆んど自分の時間と言うものがないのです。そこでこんな風にしたら、夜間に急病でもない患者が来なくなるだろうと言うことなのです。

勿論病院では三交替で、夜も交替に当直の医師、看護婦がいますから、一般開業医とは違いますが、病院の当直医は入院患者の為、そして急患外来のためにいるのであって、時間内に来れる患者が自分の都合で時間外に来る患者を診察する為ではありません。ですから日曜、祭日は夜間等は出来る限り医師をゆっくり休ませてやりたいのです。往診にしても行って見ると大したこともないのに、〝寒いから〟〝動くのが嫌だから〟と言う程度で往診を頼む例が多いのです。これもやめていただきたい。交通機関が発達している今日、来ようと思えば来れるのです。しかもその方が医師の診察を早く受けることが出来ますし、又手遅れになることも少なくなるはずです。

医師不足のこの地域に来て下さる医師に沢山居ていただく為にも、又村民全体の健康保持の為にも、もっと手に医師にかかることを研究し、ご協力下さるようにお願いいたします。

死亡交通事故防止について

十日町警察署

全国 一万六千二百五十八人
（前年一万四千二百五十六人）
本県 三百五十四人（前年二百九十一人）
当署管内 十一人（前年八人）

であり、史上最高を示し誠に憂慮すべき事態となりました。

当署管内の死亡事故の実態は別表のとおりで、死亡者は、老人と幼児が大部分であり、老人子供に対する運転者の心構えを改めなければならないと同時に保護者の責任により子供の事故防止をはかるほかはないと思われます。

本年は死亡事故ゼロを最重点として、あらゆる安全活動をしなければ、最悪の事態をひきおこすことは必然でありますので村民のみなさんから主旨を徹底され、死亡事故ゼロを期待し、あわせて輪禍の犠牲者に対し冥福をお祈りしたいと存じます。

昭和44年中の死亡事故発生状況

（十日町警察署）

月別	時間	曜日	場所	加害者 種別	加害者 年令	死者 種別	死者 年令	運転経験	運転目的	事故原因
1月	9時	火	国道117号線 四日町踏切	普貨	22	同乗	50	5年	業務	踏切不停止
3月	22時	火	国道117号線 田沢地内	普乗	36	歩行者	25	13年	通勤	前方不注意
4月	9時	水	県道小千谷、千手、十日町線 千手地内	普貨	26	二輪	54	10年	業務	右折不注意
5月	15時	土	津南町道前子橋			普貨	54	5年	〃	橋転落(自損)
6月	18時	金	県道大島津南線 大割野地内	二輪	16	横断者	61	1年	遊び	前方不注意
7月	17時	日	十日町市道 坪野路			自転車	60		通勤	踏切不停止(自損)
7月	8時	日	県道小千谷、千手、十日町線 上野地内	軽四	17	〃	64	1年	業務	自転車の合図不履行
7月	20時	木	国道117号線 下条地内	普乗	30	歩行者	2	13年	〃	前方不注意
8月	19時	月	国道117号線 馬場地内	普貨	30	〃	2	4年	〃	とび出し
10月	17時	日	国道117号線 下条地内	二輪	23	横断者	60	5年	遊び	前方不注意
11月	19時	日	国道117号線 中条地内			二輪	18	2年	〃	停車中のダンプに衝突(自損)

註 11件発生し、死亡者は老人7人、幼児2人となっており大半を占めている

稔健育会の修了式

丈夫な赤ちゃんに育てようと毎月一回赤ちゃんの体重測定などをおこなっているグループがあり、このグループは、昭和三十七年五月に、保健婦さんの母子組織づくりのよびかけをキッカケに、小原、千溝、桂、田中のお母さん方、全員三十名によってつくられたもので、現在会員三十五名、毎月二十日、部落公民館に集まり、体重測定をしたり、栄養や健康について保健婦さんたちの指導をうけたり、毎月一回みんなで勉強しています。また母子大会においては、研究発表や母子組織のあり方についての話しあいなどをおこない活発な活動を行なっている。

修了式は年一回で、現在までの修了者は、八十四名となっている。子どもたちの健やかな成長を願い、お母さんたちは、しんけんに育児問題にとりくんでいます。【写真は、去る一月三十日におこなわれた修了式記念撮影】

飼い犬は丈夫な鎖に継ぎましょう

郵便番号は住所の一部です

郵便番号をお書き下さい

楽しかった 村民娯楽大会

去る一月二十五日、中里村公民館で、恒例の村民娯楽大会が中央公民館において開催された。

健全なるレクリエーションを通じて、村民の親睦をはかるというもので、当日は、五十人の囲碁好者によって碁、将棋、麻雀の各種目に分れて熱戦を展開し、一日中たのしく過しました。

なお各種目一位から三位までの入賞者は次のとおり。

◎麻雀の部
一位 小野塚善博（上山）
二位 貝沢洋次（山崎）
三位 千原紀子（上山）

◎囲碁の部
一位 江村清（通り山）
二位 鈴木善雄（田中）
三位 山田正朗（山崎）
〃 樋口順之（千溝）

◎将棋の部
一位 南雲清三郎（堀之内）
二位 山本昭（田中）
三位 山田拡（上山）

麻雀、囲碁、将棋にわれこそは、と
手さばきもあざやかに……

郡市中学校スキー大会を ふりかえって

田沢中学校教諭 服部己津晴

グレンデスキーが、派手な楽しいものであるならば、競技スキーは地味で苦しいものである。中でもノルデック種目のレースの競技が最も苦しい。そしてこの競技の上位入賞を目ざす選手は、ヨダレを流しハナをたらしながら走っていることは、その道の通の人なら知っているはずである。

今回は当校の選手二十二名（男子十二名、女子十名）がこのレース競技に出場したのである。今この大会をふりかえって、私が特に強く感じたことを率直に書いてみると、当校の選手全員が勝敗をぬきにしても、倒れるまで走り続けたということであった。「良くやった。頑張った。」としか云えなかった。そして又、大会前に練習（コース回り）に出かけた時のことである。練習が終った後、全員で整頓の整頓、清掃、廊下の掃除等をやり、帰る時にはそれぞれが会場校の先生にしっかりとした挨拶をして帰ったことである。こんなささいなことと思うが、疲れている時にはなかなか出来ないことである。

きっと選手のこのような礼儀正しい態度と強い根性とが、今大会に立派な成績をあげた大きな原因になったものと思う。これからもますます〳〵この長所を伸ばし、活躍されることを願うのみである。

尚大会の成績は左記の通りです。特に上位入賞者（六位以下略）

◎個人の部
男子四キロ＝一位山本勝俊 四位 樋口正友
同六キロ＝四位村山彰治 四位奏 原清
女子三キロ＝二位藤ノ木美江子 四位南雲敏江五位 富井シゲ子

◎団体の部
男子総定（Aチーム）
二位 村山彰治、山本勝俊、樋口正友、渡田登
女子総定（Bチーム）
一位 藤ノ木美江子、南雲敏江、富井シゲ子

再び教育委員会 勤務となって

樋口信治

公民館を含め村に数台しか入っていない頃で、大相撲どもなれば、公民館の二階が落ちそうになる程観客がつめかけた時代であります。その十年間に社会は大きく変り、例えば若い衆の憧れの的であった、カメラ、トランジスター（ラッオ）、オートバイの三種の神器が、現在では男子のみならず、ミニやパンタロンのスタイルのカッコいい女の子が、自家用車をぶっとばす時代へと変って来ているのであろうと思いなおし「うらしまたろう」にならぬよう勉強を第一歩よりやりなおし、ささやかではありますが、これまで勤めて来た衛生と税務課の経験も取り入れ、更に行政各課及び関係機関の御協力をお願いし、出来委員会に戻ったとは云い、ことに社会教育関係は、まったくの素人と同様と考えねばならないでしょう。ベテラン樋口和一君の仕事を受け継ぐよう命じられた時、私は時代のずれを考え躁然といたしました。しかしその根底に流れているものは一つであろうと思いなおし「うらしまたろう」にならぬよう勉強を第一歩よりやりなおし、ささやかではありますが、これまで勤めて来た衛生と税務課の経験も取り入れ、更に行政各課及び関係機関の御協力をお願いし、出来

（二面より続き）

付を受けていない人に対しても交付します。

◎交付の場所と日時
・十日町市辰甲 十日町専修職業訓練課校
昭和四十五年三月四日 九時～十六時まで。

◎受領のしかた
合格証明書、通知のはがきおよび印鑑（代理人が受領する場合は、代理人の印鑑）

◎当日受領できなかった人に対しては、県庁職業訓練課で随時交付します。

得れば総合的な社会教育を目途として、皆様方の御支援のもとに、住みよい明るい郷土の建設を目ざして、一歩でも前進したいと考えておりますので、何とぞ培旧の御指導御鞭撻をお願い申し上げ、着任の御挨拶といたします。よろしくお願い致します。

中里文芸

―二月投句―

小山大泉選

檜光りかげり合いして寒明くる　悦夫
窓の雪掘りあぐ岐の空の暢　原子影なくて雪片あつきまつげ伏す　冬星と酔って孤愁の反吉を襲む

（四面につづく）

（三面に続く）

昭和44年度の技能士章交付

関係者は十日町専修職業訓練課へ

昭和四十四年度における技能士章が交付されますので、関係者は最寄りの会場で受領してください。

◎交付対象
本年度の交付対象者は、昭和四十一年度前期から昭和四十二年度後期までの技能検定（合格者は交付されません）

（合格証明書発行日、昭和四十一年十一月一日から昭和四十四年五月十三日まで）でありますが、それ以前の技能検定合格者であって、いまだ技能士章の交